

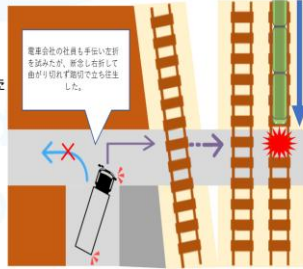


経路ミスから踏切事故が発生し、死亡災害に繋がる



2019年に横浜市内の踏切にて、快速特急列車と大型トラックが衝突する事故が発生して、**トラックの運転手(67)**が死亡して乗客30人以上が怪我をした。
トラックは踏切を通過する予定はなく、運行の途中で経路を間違えたことから、狭い道路に迷い込んだと推察されます。

最初は踏切前の交差点を左折しようとしたが、道路幅が狭く横断などに車体が当たりそうで、何度も切り直ししても曲がり切れなかった為に、右折して踏切から国道へ戻ろうとしたのか、又は過去にUターンした時、その後非常に時間がかかった経験などがあって、抜け道がないかと考えて右折した可能性もあります。



以上のことから、経路を設計する時は距離だけを優先するのではなく、現場の道路をよく知る運転者の意見、運行管理者の意見などをよく聞いて、より安全で運転者にとって走行ストレスの少ない経路を選択することが重要です。
特に、大型車両、4トン車などは注意して下さい。



絶対に「優先」の道路はありません。



皆さんの提出してくれた**ヒヤリハット体験**などを読んでみると「こちらが優先なのに、自転車が進まらず出てきてびっくりした」や「直線優先なのに強引に右折された」などというこんな話題が多いです。
しかし、日本の道路では、相手側の道路に一時停止の標識があっても、「絶対に優先」はないと思って運転しよう。

というのは、自分が優先側の道路を走行していて**車同士の出会い頭事故**が発生した時、**損害賠償実務では20%の過失責任が発生する**のが基本だからです。
相手が四輪車ではなく**二輪車の場合は車側が35%、相手が自転車の場合は60%にもなります。**いったい、どちらが優先道路かわかりませんが、これが現実なのです。

もちろん一時停止場所にも例外があり、歩道を横切って道路外に出るとき、一時停止しないで歩行者とぶつかった場合は、**100%車の責任**です。ですから、自分が優先側にいたら、「絶対に優先」はないと思って、やはり安全確認をするようにしましょう。



ルートを適正化する前に特定事情を考慮する必要がある



AIにてルート設計を行う際には、様々な条件をチェックしておく必要があります。

例えば、小学生などの登校時間帯には**登下校道路**を走行するのは危険なので、パテラン配車担当者は、配達順番を変えたり、迂回経路を選択して対処します。その配慮がないと、**AIでのルート設計では、効率化を優先して登下校のことも接近通過するような配送ルートを組んでしまう恐れ**があります。

また、工場入出口への最短ルートがあったとしてもその道は幅員が狭い生活道路で大型車両の走行には危険がある為、工場ではトラックに関して別ルートからの入場を指定している場合があります。※右折入場禁止等ソフトに頼ると交通違反にはならなくても、**工場の入場ルール違反**になる恐れがあります。



経験を頼んだ配車担当者であれば、個々の配達先を考慮して的確に条件付きの指示をすることが出来ます。
AIにルート設計をさせる場合でもそうした情報をあらかじめ学習させて、特定の配達先の条件検索ができるようにしておく必要があります。



構内でもバック時は確実な確認を



バックは安全確認が難しいので、**物損事故**がよく発生しています。駐車場や事業所の構内でもバック時の事故が多いようです。

その多くは、背の低い障害物や軒などの出っ張りや接触する軽微な事故ですが、構内だからといって油断すると、まれに人身事故を起こしてしまうこともあります。
事業所の構内では車や歩行者の通行が少ないため、追記が緩んで無意識にバックしてしまうがちです。こんな時こそ、事故が起こりやすいのです。



どんな場所でもバックは**非常に危険な行動だと認識**して、安易にバックしないこと、バックする前には必ず一旦降車して周りの状況を十分に安全確認することを守ってください。

※逆凸は当社事故発生率は非常に高いです。



自分の中に潜む危険な心理を予測する姿勢も必要



相手の危険行動だけでなく、**自分自身のなかに潜む心理的な危険を予測**することも重要です。

わき見運転などで事故を起こしたケースなどをみると、運行経路を確認する際に標識を見ていたか、ナビの表示を確認するために見ていたといった**前方不注意が事故の要因**をなっていることがあります。運転者の言い訳としては、運転に必要な確認をしていたということなのです。

しかし、その行動の背景には初めて走行する道路の為、迷ったり分岐を間違えることに不安を感じて長い時間標識を見たとか、渋滞の為遅れており、予定経路とは違う道路を走行しようと思って、ナビを操作して抜け道を探したいといった心理が潜んでいます。



急ぎや焦りの心理に陥っていると「自分が危険な行動をしがちである」ことを自覚して、急ぐようなときほどしっかりと前を見て安全確認を確実にしようと言い聞かせるなど、自分自身の危険な心理に対する心構えを持つようにしましょう。



・駐車時の輪留め(2個)の徹底

・業務中のヘルメット着用

今一度、原点回帰